

宗岡中だより



新春号 令和3年1月6日(水)
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

「厳寒の 空の蒼さに 洗われる」

校長 佐藤哲浩

新年あけましておめでとうございます。年末年始は典型的な冬型の西高東低の気圧配置になり、関東地方は連日冬晴れになりました。新春の澄んだ蒼空に心も洗われ、新たな計を立てていることと思います。本年も本校の教育活動にご支援を賜りますようお願いいたします。

今年の干支は丑(うし)、正確には辛丑(かのと・うし)。本来、干支とは十干(甲、乙、丙、丁・・・辛、壬、癸)、と十二支(子・丑・寅・・・酉、戌、亥)を組み合わせたものを指します。十干と十二支には、ともに草木の成長に例えられるという共通点があります。10と12の最小公倍数である60、60種類の干支が巡り、60年後に自分の生まれた干支に戻ることを還暦といいます。「辛」とは季節でいえば晩秋、次世代の種を大地に還す時期を示します。また「辛」という漢字は、針で刺すことから身体的な苦痛を表す言葉で、ツライ、カライ、ヒドイなどの意味を持ちます。一方、「丑」とは発芽直前の芽が種子の硬い殻を破ろうとしている状態で、命の息吹を表しています。つまり辛丑(かのと・うし)とは、痛みを伴う幕引きと、新たな命の息吹が互いに生かし合い、強め合うことを意味しています。

話は変わって、過日新聞で心が暖まるニュースを目にしました。東京駅構内の商業施設「グランスタ東京」に2.7mの巨大「赤ベコ」を展示し、人気スポットになっているそうです。「赤ベコ」の発祥は会津若松であり、疫病除けの玩具として伝えられています。会津若松には次のような伝説があります。



今から400年位前、会津を大地震が襲いました。圓蔵寺をはじめ、宿坊、民家などあらゆるものが倒壊し、多数の死者が出てしまいます。その後、圓蔵寺再建の際に大きな木材を川岸より崖上に運ぶのに、人々が困り果てていたところ、どこからか赤毛の牛の大群が現れ、木材の運搬を手伝いました。おかげで本堂を再建することができ、人々は大喜びしました。しかし、赤毛の牛たちはお寺の完成を待たずして、どこかへ姿を消してしまったそうです。それ以来、人々は赤毛の牛に感謝の気持ちを表し、「赤ベコ」は福を運ぶベコとして大切にされているそうです。

「赤ベコ」の張子には黒い点が描かれていますが、これは天然痘を表しています。その昔、天然痘は死に至る危険な病気で、幼い子どもがかかると死亡率が高かったと言われていました。子どもたちが天然痘にかからないように、身代わりとして赤ベコに描いたそうです。また、赤色は病魔を振り払うと考えており、中国から伝わったとされています。病気を引き起こす疱神は赤を好むことから、赤で神をもてなし病気を軽く済ませてもらう。俗に「赤もの」と呼ばれ、病人の病を背負うと信じられてきたのです。

今年はコロナ禍が収束し、教育活動が原状復帰することを願うばかりです。